

97

衛
兵
勤
務
全

衛兵勤務目錄

第一章 衛兵ノ一班

第二章 衛兵ノ一班

第三章 衛兵ノ一班

第四章 衛兵ノ一班

第五章 衛兵ノ一班

第六章 衛兵ノ一班

第七章 衛兵ノ一班

第八章 風紀衛兵司令及衛舍掛步哨掛ノ任務

第九章 步哨一般ノ心得及特別守則

第十章 衛兵及步哨ノ敬禮

第十一章 暗號及問查法



一

六

四

一

九

二

四

三

〇

三

五

三

九

四

七

五

六

衛兵勤務

第一章

衛兵ノ一班

第二 衛兵勤務ヲ分テ左ノ如シ

其一 衛戍衛兵勤務

其二 風紀衛兵勤務

第三 衛戍衛兵ノ目的ハ平時衛戍地ノ治安ヲ維持シ且ツ事

變ニ際シ人民ヲ保護スルニ在リ故ニ衛戍控兵ハ時機ニ應シ

テ衛兵ノ增加シ或ハ臨時派遣ノ爲メ營中ニ備スルモノニシ

テ常ニ脚絆ヲ袴上ニ附着シ武装ノ準備ヲ爲ス居ルモノトス

第三 風紀衛兵ハ營内ヲ靜謐ニシ且ツ定則ヲ確守セシメ

爲メニ屯營毎ニ置ルモノニシテ其任務タルヤ營中一般ノ風

紀ヲ維持シ内外ノ警戒ヲ掌ルニ在リ故ニ一般ノ定則及ヒ注

意等ハ衛戍ノ衛兵ニ異ナルヲ示ス但シ服裝ハ略裝(陸軍服裝規則第三條正裝ニ儀式祭典等總テ大禮ノ用スルモノニシテ其場合ニ新年ニ大節 新年宴會紀元節 陸軍始靖國神社大祭ノ般大禮服着用ノ場合ニ在テハ正裝)ニシテ歩兵要塞砲兵正兵ニ在テハ背囊(外套)ヲ着ス脚絆ヲ袴上ニ着スベシ
 第四 衛兵ノ交代時限ハ衛戍司令官ニ決定スルモノニシテ土地ノ景況時侯ノ寒暑ニ從ヒ異ナルヲ示ス然レモ衛兵勤務時間ハ二十四時以テ越邊スルトナシ
 第五 衛兵ノ交代時限三十分前ニ至レハ風紀衛兵ノ喇叭手ニ衛兵交度ノ號音ヲ吹奏ス此號音ニテ週番軍曹ハ衛兵ニ當ル兵卒ヲ合外ニ整列セシメ精密ニ武裝ヲ檢査シ然ル後チ之ヲ引率シテ集合所ニ至ルヘシ但シ週番軍曹ハ背囊ヲ負ハスト雖モ服裝ハ上番衛兵ニ異ナルヲ示ス

第六 定時限ニ至リ「集合」ノ號音ニテ週番中隊長同特務曹長同軍曹及週衛兵ニ當ル者集合スルコトノ如シ
 晉昇級別昇級ニ週番軍曹ニ全 衛兵軍曹ニ全
 衛兵上等兵全 兵卒全
 同 兵卒全
 同 兵卒全
 注意週番軍曹上番軍曹且ク下級若シハ新參者此列ハ列フ左翼ニ位置スルモノトス又衛兵中乘馬兵アルハ列ノ左翼ニ在テ檢査ヲ受ケルモノトス

第七 衛兵集合セシ後檢査ヲ行ヒ之ヲ各衛兵所ニ部署ス其
 方法左ノ如シ

- 一 週番特務曹長ハ縱隊ノ先頭若干歩ニ位シ各右翼ヲ一直
 線ニ占位セシメ而シテ後整頓セシムヘシ
- 二 整頓已ニ終レハ週番特務曹長ハ二列ノ部隊ニ告示シテ
 開列ヲナサシメ週番中隊長之ヲ檢査ス
- 三 此檢査中週番特務曹長ハ週番中隊長ニ隨從シ檢査畢レ
 ハ衛兵ヲ縱隊ノ先頭ニ密集セシム
- 四 週番特務曹長ハ衛兵ニ出立下士及兵卒ヲ各衛兵所ニ部
 署ス其下士及ヒ上等兵ハ姓名ヲ呼ビ何處ノ司令或ハ衛兵
 マルコキ命ス是ニ於テ其呼レタル軍曹及ヒ上等兵ハ列ヲ
 出テ其所定ノ地ニ至ル之ニ屬スヘキ兵卒或ハ喇叭手ハ何
 處ノ衛兵或ハ喇叭手第何隊ヨリ何名ト呼出ルハ週番

軍曹ハ週番特務曹長ノ呼出ニ應シ兵卒或ハ喇叭手ヲ其位
 置ニ到ラシムヘシ

- 五 週番特務曹長ノ部署終レハ衛兵ノ司令自ラ隊伍ヲ編成
 シ之ヲ引導シテ衛兵所ニ赴クヘシ
- 六 週番中隊長ハ檢査終レハ所定ノ地ニ占位シ週番軍曹ハ
 其部隊ノ割出畢レハ週番中隊長ノ後方四歩ノ地ニ並列シ
 週番特務曹長ハ編成ノ後週番中隊長ノ左側ニ至ル是ニ於
 テ週番中隊長ハ週番特務曹長ヲシテ翌日衛兵其他ノ勤務
 ニ當ルモノヲ達セシム
- 七 週番軍曹ハ週番特務曹長ヨリ達セラレタル人名及ヒ人
 員ヲ筆記シ下士及ヒ上等兵ハ勤務通報録ニ其姓名及ヒ衛
 兵ノ個所ヲ記載シ之ヲ當人ニ通知ス又兵卒ハ自ラ其人員
 ヲ割出シ勤務番割録ニ記載シ週番上等兵ヲシテ本人ニ達

第五章

衛戍服務一般ノ心得

第八 本書ハ衛戍條例及ハ衛戍服務規則ノ範圍内ニ於テ特ニ心得ヘキ細件ヲ規定スルモノトス

第九 本書ニ於テ條例第何條ト稱スルモノハ衛戍條例ノ條項ヲ云ヒ規則第何條ト稱スルモノハ衛戍服務規則ノ條項ヲ云フ

第十 條例第三條ノ衛兵部署及ヒ其人員ハ時宜ニ依リ一定セザルモ當分ノ内左ノ規則ニ從フヘシ

(一) 衛兵ハ師團司令部構内ニ置キ控兵ヲ本隊ノ屯營内ニ置ク

(二) 衛兵及ヒ控兵ハ建制ノ步兵一中隊ヲ充ツ但シ中尉若

クハ少尉一名(衛兵司令)下士三名上等兵四名兵卒三十四名喇叭手一名ヲ衛兵ニ充テ殘員ヲ控兵ニ充ツルモノトス

(三) 前項ノ衛兵及ヒ控兵ハ步兵第四聯隊同第十七聯隊ニ於テ兼交互ニ服務スルモノトス但シ本項兩隊ノ交代ハ三日毎ニ於テス

第十一 前條ノ外傳令兵トシテ騎兵卒二名ヲ騎兵第二聯隊ヨリ號砲手トシテ砲卒二名ヲ野戰砲兵第二聯隊ヨリ衛兵所ニ出スヘシ此傳令兵及ヒ號砲手ハ衛兵司令ノ令下ニ屬スルモ該司令ノ傳令兵モ使用スルハ非常若クハ火災ノ時ニ限ルモノトス

第十二 規則第七條第一項(下番衛兵ハ交代ノ時限前ニ至レハ武装ヲ整理シ衛舎ノ前ニ於テ其左方ニ上番衛兵ノ爲メニ餘地ヲ置テ整列ス若シ其場所狹小ナルハ上番衛兵ヲシテ衛

舍ノ方ニ整列セシムル爲メ下番衛兵ハ其前方ニ整列シ衛舍ニ對向ス上番衛兵凡ソ五十歩ノ地ニ來レハ速步行進ヲ取リ喇叭ヲ吹奏ス而シテ其位置ニ到レハ停止正面シテ整頓ス兩衛兵ハ共ニ捧銃ヲナシ喇叭手ハ「皇御國」ヲ吹奏ス兩衛兵ノ司令ハ互ニ進テ敬禮ヲ行フ而シテ下番衛兵司令ハ職務ニ關スル百事ヲ上番衛兵司令ニ傳告スルモノトスノ衛兵交代ノ時限ハ毎日午後一時ニ於テス傳令卒及ヒ號砲手ノ交代時限モ亦同シ但シ毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ午前九時ニ於テス同第五項(衛兵ハ衛戍司令官ノ訓令ニ從ヒ其銃ヲ銃架ニ置クカ或ハ衛舍内ニ置クヘシ何レノ場合ニ在テモ銃及ヒ背囊ハ各自番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ列置シ錯雜セサル様注意スヘシ)ノ衛兵ノ銃ハ夜間及ヒ降雪又ハ暴風等ノ場合ニ限リ衛舍内ニ置キ其他ハ總テ銃架ニ置クヘシ

第十三規則第八條(暗號ハ地方ノ情勢ニ於テ必要アルトハ之ヲ用ヒ衛戍司令官之ヲ規定ス)ノ暗號ハ當分ノ内一週間連合ノ暗號表ヲ以テ毎土曜日ニ傳達セシム但シ當日休暇日ナルトハ其前日ニ於テス

第十四規則第十四條(衛舍ニハ常ニ其人員ニ應スル實包ヲ納レタル函アリ此函ハ衛戍司令官嚴重ニ鎖封シテ火災ノ患ナキ場所ニ置クモノニシテ衛戍司令官ノ命アルカ又ハ形勢万止ヲ得サル時ニアラサレハ衛兵司令其鎖封ヲ開キ實包ヲ配分スルヲ許サス)ノ實包箱ハ師團司令部表門ノ北側ニアル火藥庫ニ置キ衛兵司令ヲシテ保管セシム其他號砲用ノ火藥モ亦同シ

第十五規則第二十條(衛兵ハ警戒及ヒ敬禮ノ爲メ執銃整列ス但シ非常ノ時ニアラサレハ背囊ヲ負ハサルモノトス)敬禮

ノ爲メ警利スル場合ハ陸軍禮式第四十八條(禮式ノ部)ニ見
ル詳キリテ離基普通ノ場合ハ左ノ如ク
衛兵及ヒ表門衛兵同輜重廠衛兵ハ軍旗及ヒ將官又ハ將校
ヲ引率スル軍隊及師團司令部又ハ輜重廠ノ素門出入(各兵
整合前)スル時但シ輜重廠衛兵ニ限リ同上軍旗及ヒ其他
モノ輜重廠表門外ニ通行(門外)スル時モ亦同(急報ヲ要
ハ此限ス)

第十六 規則第三十一條(衛兵司令)毎日衛戍司令官ノ定
ル時刻ニ於テ前日交代後發生セシ事件ヲ詳記シ之ヲ報告ス
ルハ若シ重大ノ事件ニシテ急報ヲ要スルハ別ノ報告書ヲ
衛戍副官ニ送致スルハ報告時限ハ毎日午前第十一時トス
但シ毎年七月十日ヨリ九月十日マテノ間ハ午前第八時三
十分ニ於テ

第十七 規則第三十五條(衛兵ニ數名ノ上等兵ヲ付スル其内
一名ヲ衛舍掛ヲ勤メ其他ノ者ハ交番ニ步哨掛或ハ巡察扨候
等ニ關テ勤務ヲ服ス)ノ步哨掛又ハ巡察扨候等ノ守地ヲ巡
廻スル場合ハ背囊ヲ負ハズ及ハズ

第十八 規則第三十六條(衛舍掛ハ衛舍内外ノ清潔ニ注意シ
衛舍及ヒ舍内備附ノ諸器具保存ニ任テ故ニ交代ノ時下番衛
兵ノ衛舍掛立會ニテ諸器具及ヒ門戸鍵等ニ至ルマテ悉ク
破損欠失ヲモテ否ヲ檢テ而シテ其有無ヲ衛兵司令ニ報告ス
ルハ若シ破損欠失ナルハ司令ヨリ其旨ヲ衛戍副官ニ報告
スルハ)ノ報告ハ破損欠失事由及ヒ品目員數ヲ修理申立帳ニ
詳記シ衛戍副官ハ檢印シ上衛營檢上等兵ヲシテ差出サシム
ル

第十九 規則第三十一條(步哨掛掛銃或ハ立銃ヲ爲シ或ハ銃

ヲ腕ニシ其守地ヲ看守スヘシ假令哨舎内ニ在ルキト雖も銃ヲ離スヘカラス夜間又ハ別命アルニアラサレハ銃ニ劔ヲ附セスノ步哨ノ銃ハ夜間ハ總テ着劔スヘシ其他夜間ニ於テスル巡察及ヒ斥候ノ銃モ亦同シ

第二十 規則第三十七條(斥候ノ數及其巡察區域ハ衛兵司令之ヲ定メ且ツ屢々其發程時刻及通路ヲ變更スルモノトス)ノ衛兵ヨリ出ヌ斥候ノ數及ヒ其發程時刻又ハ通路等ハ之ヲ詳記シ翌日定時報告ノ時ニ衛戍副官ニ差出ヌヘシ但シ同條中控兵ヨリ出ヌヘキ斥候ハ臨時之ヲ命ス

第二十一 規則第四十一條(巡察ハ晝夜之ヲ行ヒ晝巡夜巡ト稱ス)ノ夜巡ハ同第四十二條(其一將校巡察)ノ將校巡察ヲ用ヒ通常士官二名ヲシテ各隊交互ニ服務セシメ其割出ハ毎水曜日會報ニ於テ衛戍副官ヲシテ通達セシム但シ規則第四十一條

ノ晝巡同第四十二條ノ巡察ハ臨時之ヲ命ス

第二十二 將校巡察ハ一週間總テ服務シ毎土曜日午前第十一時師團司令部ニ於テ交代ヲ爲ス若シ其巡察服務中ニ疾病其他ノ事故ニ依リ服務ヲ繼續シ難キ場合ニハ本隊ニ於テ交代者ヲ出シ其人名ヲ報告スヘシ但シ巡察ノ日時及ヒ其巡察スヘキ守地等ハ本隊ニ於テ交代ノ時衛戍副官ヲシテ本人ニ傳達セシム

第二十三 將校下士卒ハ日々練兵等ニ出場シ又其將校ハ勤務時限外ニ在テハ當分ノ内歸宅スルヲ得

第二十四 控兵ノ司令ヲ將校下士卒ニ區分シタル人員表ヲ作シ衛戍司令官ニ報告スヘシ但シ本條報告ハ衛戍交代ノ時該兵ノ下士卒ハ衛戍副官ニ差出サシムヘシ

第二十五 控兵ノ帶ニ其非常準備ヲ確實ニ保持シテアルヤ否

第三就天ハ所屬聯隊長ノ責任トシテ故ニ當該聯隊長ハ種々ノ
 事項ヲ用テ各部以テ用意如何ヲ檢査スヘシ
 第二十六師團衛兵及檢査兵ノ非常又ハ火災ノ場合ニ際スル心
 得ハ第二師團偵臺衛隊地非濃及火災心得書ニ於テ規定ス
 第三章 衛戍衛兵ノ任務及細則ノ心得
 第二十七師團衛兵ハ師團司令及ヒ其構内ニアル兵器庫火
 藥庫彈藥庫等ヲ守備シ併ニ衛戍地一般ノ治安ヲ維持スルヲ
 任ス
 第二十八師團衛兵ノ守備ニ係ルル個所ハ左ノ如キ
 一 師團司令部裏門ニ單哨一
 一 師團司令部裏門ハ日出ニ開扉シ
 一 日沒ニ裏門ハ日出ニ開扉シ
 一 第一第二第三兵器庫ニ單哨一
 一 本哨ハ彈藥庫
 一 第一第二彈藥庫ニ複哨一
 一 本哨ノ内一名ハ彈藥庫替所藥
 一 茨洗淨所填替材料格納庫ヲ兼
 守
 一 第三彈藥庫ニ單哨一
 一 第一第二火藥庫ニ單哨一
 一 本哨ハ日沒ヨリ日出ニ至ル
 一 ヲ引揚ケタル
 一 者ヲ用テ
 以上發遣衛兵ニ之外之表裏門衛兵及一轉重廠衛兵ト稱ス

銃前ニ單哨一
 一 本哨ハ第四兵器庫ヲ兼守ス
 一 師團司令部裏門ニ單哨一
 一 本哨ハ日出ニ配置シ日沒ニ引
 一 日沒ニ裏門ハ日出ニ開扉シ
 一 第一第二第三兵器庫ニ單哨一
 一 本哨ハ彈藥庫
 一 第一第二彈藥庫ニ複哨一
 一 本哨ノ内一名ハ彈藥庫替所藥
 一 茨洗淨所填替材料格納庫ヲ兼
 守
 一 第三彈藥庫ニ單哨一
 一 第一第二火藥庫ニ單哨一
 一 本哨ハ日沒ヨリ日出ニ至ル
 一 ヲ引揚ケタル
 一 者ヲ用テ
 第三十九師團衛兵司令ハ每母軍前ニ於テ衛舍之内外表裏門衛兵

(ヌ)ヲ掃除セシメ自ラ之ヲ検査スヘシ但シ毎土曜日午前ニ
 衛戍副官ニ報告シテ該官ノ検査ヲ受クヘシ
 第三十 衛兵司令ハ規則第二十二條(衛兵司令部下ニ犯罪其
 他事故ニ依リ服務ヲ繼續セシム可ラサル者アルハ直ニ本
 隊ノ週番副ニ通知シテ交代兵ヲ要求シ後之ヲ衛戍副官ニ報
 告スヘシ)ノ事故者アル場合ニ當リ其事故疾病ニシテ重患者
 ト認ムル時ハ衛舎内ニ掲示シアル醫官ニ通報シ來診ヲ請フ
 ヘシ
 第三十一 衛兵司令ハ衛兵中ニ犯罪若クハ犯則者アル時ハ
 糾給シテ口供ヲ作ルカ若クハ本人ヨリ始末書ヲ徴シ衛戍副
 官ニ差出スヘシ
 第三十二 衛兵司令ハ其他ノ犯罪人自首シ來ルカ若クハ地
 方官衙ヨリ護送シ來ルルハ要スレハ相當ノ監守兵ヲ附シ衛

兵所ニ待タシメ置キ其趣キヲ速ニ衛戍副官ニ報告(但シ軍隊
 ヲ護送セシメ者ハ)スヘシ若シ其當日休暇日ナルカ或ハ衛戍
 副官退出後ナル時ハ師團司令部當直ニ通知スヘシ
 第三十三 衛兵司令ハ其本隊ニ於テ衛兵服務中ニアル者ヲ
 臨時必要トスルコトアリテ交代者ヲ出シ來ルルハ其請求ニ應
 スルヲ得然ルルハ其趣キヲ衛戍副官ニ報告スヘシ
 第三十四 衛兵司令ハ毎日午前十一時三十分ニ下士ヲシテ
 火藥庫ヲ開キ正午ヲ報スル號砲用ノ火藥及ヒ門管ヲ出シテ
 號砲午ニ交附シ其發射ヲ指揮セシムヘシ
 第三十五 衛兵司令ハ前項ノ下士ヲシテ火藥及ヒ門管ヲ出
 納スル毎ニ其員數ヲ調シ消費高ト現在高トヲ差引帳簿ニ記
 載セシメ而後衛兵司令自ラ之ヲ檢印ノ上該下士ヲシテ上番
 ノ下士ニ申渡サナサシメ但シ本項ノ火藥門管ハ每月末ニ於

テ凡ソ一ヶ月分ヲ取纏メ砲兵第一方面仙臺支署ヨリ受領ス
 第三十六 總テ衛兵ノ交代ニ際シ號砲用ノ火藥類ヲ引續ク
 ニハ上番及ヒ下番ノ司令會同ノ上帳簿ニ照シ員數ヲ實查シ
 而後上番ノ司令之ヲ封印スルモノトス
 第三十七 衛兵司令ハ號砲發射用ノ爲メ毎日午前十一時四
 十五分ニ喇叭手一名ヲ師團司令部立關前ニ差出スヘシ
 第三十八 日々號砲發射スルニハ毎日午前若干時間前ニ衛
 戍副官喇叭手ニ命シ「氣ヲ付」ノ譜ヲ吹奏セシメ鳥渡正午十二
 時ノ一瞬間時間前ニ一聲ノ喇叭ヲ吹奏セシム此號音ニテ第三
 十四ノ下士ハ直ニ號砲ヲ發射スヘシ
 第三十九 都テ號砲用ノ砲及ヒ附屬具ハ衛舍掛上等兵ヲシ
 テ保管セシムヘシ然レモ前條發射ノ場合ニ於テ號砲手ヲノ

砲ノ譯掛附屬具ノ取片付等ヲナサシムルハ臨場下士ノ責任
 トス

第四十 衛兵司令ハ毎土曜日午前ニ於テ砲及ヒ附屬具ヲ檢
 査シ其成績ヲ報告スヘシ

第四十一 衛兵司令ハ衛兵必要ナル消耗品ヲ受領シ消耗品
 帳ニ品目及ヒ員數ヲ記載シ衛舍掛上等兵ヲシテ師團司令部
 ノ書記ニ就テ請求セシムヘシ

第四十二 衛兵司令ハ師團司令部附ノ陸軍用地(城山)ニ於テ
 銃獵ヲナス者アル時ハ之ヲ制止シ且ツ其人名ヲ聞糾シテ衛
 戍副官ニ報告スヘシ但シ師團司令部ニ於テ銃獵ヲ許可シヌ
 ルキハ衛戍副官ヨリ豫メ其趣キヲ衛兵司令ニ通告スヘシ

第四章 表門及ヒ輜重廠衛兵任務

其一 表門衛兵任務

第四十三 表門衛兵ハ衛戍衛兵ニ属シ第二師團司令部ノ表門ヲ守備シ專ラ該門ノ出入者ヲ監視スルモノトス

第四十四 表門衛兵ハ左ノ個所ニ步哨ヲ配置スヘシ
師團司令部表門ニ單哨一 但シ本哨ハ銃前哨ヲ兼ル者トス

第四十五 師團司令部ノ表門ハ日出ニ開扉シ日没ニ閉扉ス夜間ハ小門ヲ開キ置クヘシ

第四十六 表門衛兵ノ上等兵ハ衛舍掛步哨掛及ヒ其他諸勤務ヲ兼掌スルモノトス但シ步哨ノ交代ハ故參兵卒ヲシテ分掌セシムルヲ得

第四十七 上等兵ハ非常ノ事變又ハ近傍ニ火災アルヲ認ムルハ速ニ衛兵司令ニ報告スヘシ

第四十八 上等兵ハ無鑑札ノ者表門ニ來リ入門ヲ請フハ

其住所姓名ヲ聞糾シテ帳簿ニ記載シ而後兵卒ヲシテ所要ノ場所ニ誘導スヘシ但シ軍法會議ヨリ召集シタル者ハ本條ノ手續ヲ大サス直ニ入門セシムヘシ

第四十九 上等兵ハ前條ノ入門者出門スル時ハ其携フル所ノ出門証ヲ受領シ且ツ帳簿ニ出門ノ時限ヲ記シ置キ而後報告ト共ニ衛兵司令ニ差出スヘシ

第五十 上等兵ハ交代若クハ其他ノ場合ニ當リ衛舍内ノ備附品門戸窓牖等ニ破損若クハ欠失アルヲ認ムルハ其事由ヲ取糾シ衛兵司令ニ申出スヘシ

第五十一 上等兵ハ衛兵ニ必要ナル消耗品ヲ受領スルニハ消耗品受領帳ニ品目及ヒ員數ヲ記載シ師團司令部ノ書記ニ就テ請求スヘシ

第五十二 上等兵ハ前條ノ外ニ於テ勤務上不審ノ廉アルハ

ハ都テ衛兵司令ニ就テ指示ヲ受クヘシ

其二輜重廠衛兵

第五十三 輜重廠衛兵ハ衛戍衛兵ニ屬シ輜重廠内ノ諸倉庫ヲ守備シ廠門ノ出入ヲ監視スルヲ任トス

第五十四 輜重廠衛兵ハ左ノ個所ニ步哨ヲ配置スヘシ

輜重廠表門ニ單哨一(本哨ハ銃前哨ヲ兼テ且ツ夜間ハ動哨トナリテ第一號倉庫ヲ兼守スヘシ)

輜重廠裏門ニ單哨一(本哨ハ銃前哨ヲ兼テ且ツ夜間ハ動哨トナリテ第一號倉庫ヲ兼守スヘシ)

第五十五 輜重廠ノ表門及ヒ裏門ハ日出ニ開扉シ日没ニ閉扉ス夜間ハ表門ノ小門ヲ開キ置クヘシ

第五十六 輜重廠衛兵ノ上等兵ハ衛舍掛步哨掛及ヒ其他ノ諸務ヲ兼掌スルモノトス但シ步哨ノ交代ハ故參兵卒ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

第五十七 上等兵ハ毎日午前ニ於テ衛舍内外ヲ掃除セシメ

自ラ之ヲ檢査スヘシ

第五十八 上等兵ハ非常ノ事變又ハ近傍ニ火災アルヲ認ムルキハ速ニ輜重廠長(同長退出後ニ在)及ヒ衛兵司令ニ急報スヘシ

第五十九 上等兵ハ衛兵中ニ犯罪者若クハ犯則者アルキハ之ヲ取糾シ輜重廠長及ヒ衛兵司令ニ其犯狀ヲ具申スヘシ

第六十 上等兵ハ衛兵中ニ勤務ニ堪ヘサル發病者アルキハ衛兵司令ニ申報シテ交代兵ヲ請求スヘシ

第六十一 上等兵ハ無鑑札ノ者廠門ニ來リ入門ヲ請フキハ其趣ヲ輜重廠ノ書記ニ通知シ其指示ヲ受クヘシ

第六十二 上等兵ハ交代若クハ其他ノ場合ニ依リ衛舍内外備附品及門戸窓牖等ニ破損若クハ欠失アルキハ事由ヲ審ニ

シ輜重廠長ニ届出テ修理又ハ交換ヲ請フヘシ

但シ破損欠失ノ事由衛兵ノ不注意ニ基クハ本人ヲシテ自償セシム若シ其本人不明ナルハ衛兵一同ヨリ補償スルモノトス

第六十三 上等兵ハ衛兵ニ必要ナル消耗品ヲ受領スルニハ其品目員數ヲ帳簿ニ記載シ輜重廠ノ書記ニ就テ請求スヘシ

第六十四 上等兵ハ定時限リ諸報告ヲ衛兵司令ニ差出スヘシ

第六十五 總テ輜重廠衛兵ノ交代ハ步兵第四聯隊ヨリ上等兵ハ師團司令部表門ノ交叉路ニ於テ衛戍衛兵ト分離シ又步兵第十七聯隊ヨリ上等兵ハ屯營ヨリ直ニ守地ニ至リ交代スヘシ其下番飯營ノ兵ハ之ニ反スル法ニ據ルハシ

第五章 步哨ノ守則

第六十六 衛戍衛兵ヨリ配置スル步哨ハ左ノ特別守則ヲ遵

奉ス可シ

其一 銃前步哨特別守則

- 一 此步哨ハ第四兵器庫ヲ兼守シ時ニ其周圍ヲ巡行スヘシ
- 二 第四兵器庫ハ衛兵ノ下士若クハ上等兵ノ立會ニ非レハ其開ヲ禁スヘシ
- 三 各步哨ヨリ通信アルハ前方ニ進ミ其事由ヲ聞取り速ニ衛舎ニ報スヘシ

其二 師團司令部裏門ノ步哨特別守則

- 一 定製ノ服装ヲ爲シタル軍人軍属及ヒ郵便電信配達者ノ外第二師團司令部又ハ仙台陸軍經營部ノ鑑札ヲ所持スル者ニアラサレハ通行ヲ禁スヘシ
- 二 物品ヲ門外ニ持出ス者アルハ出門証ヲ(第二師團司令部)印ヲ捺捺(モシタル)携帶スヘキヲ以テ之ヲ受取り交代ノ後上等兵ニ差

出スヘシ若シ出門証ヲ所持セサル者ハ門外ニ持出スヲ禁
 スヘシ然レモ各自携帯ノ行厨若クハ定規ノ服裝ヲナシ
 ル將校ノ隨從者ニシテ携帯スル物品ハ此限ニアラス
 三 晝間ニアリテハ荷車又ハ軍隊外ノ馱馬ハ此門ヲ通過セ
 シム
 四 第一第二彈藥庫ノ複哨ヨリ通信アルキハ其事由ヲ聞取
 速ニ衛舎ニ報スヘシ
 其三 第一第二第三兵器庫ノ步哨特別守則
 一 此步哨ハ彈藥庫ヲ兼守シ衛兵ノ下士若クハ上等兵ノ立
 會ニアラサレハ開閉ヲ禁スヘシ
 二 時々此周圍ヲ巡行スヘシ
 三 衛舎ニ報スヘキ事アルキハ速ニ銃前哨ニ通知スヘシ
 其四 火藥庫及彈藥庫ノ步哨特別守則

一 火藥庫及彈藥庫ノ圍牆内ニハ師團司令部ノ將校若クハ
 砲兵第一方面仙臺支署又ハ仙臺經營部ノ吏員并ニ彈藥運
 搬者ノ外ハ出入スルヲ禁スヘシ
 二 彈藥墳替場藥莢洗淨場墳替材料格納庫ヲ閉鎖シタル後
 ハ第一第二彈藥庫ノ複哨之ヲ兼守シ時々其周圍ヲ巡行ス
 三 火藥庫彈藥庫墳替場藥莢洗淨場墳替材料格納庫ハ衛兵ノ
 下士若クハ上等兵ノ立會ニアラサレハ其開閉ヲ禁スヘシ
 四 衛舎ニ報スヘキ事アルキハ第三彈藥庫ノ步哨ハ銃前哨
 ニ第一第二彈藥庫ノ步哨ハ裏門步哨ニ第一第二火藥庫ノ
 步哨ハ第一第二彈藥庫步哨ニ通知スヘシ
 五 復哨ノ一人ハ動哨トナリテ時々圍牆上ヲ巡行シ他ノ一
 人ハ常ニ定位地ニアルヘシ

第六十七 表門衛兵ヨリ配置スル歩哨ハ左ノ特別守則ヲ遵奉スヘシ

其五師團司令部表門歩哨特別守則

- 一 此歩哨ハ銃前哨ヲ兼テ定則ノ服裝ヲ爲シタル軍人軍屬及ヒ郵便電信配達者ノ外第二師團司令部若クハ陸軍經營部ノ鑑札ヲ所持スル者ニアラサレハ通行ヲ禁スヘシ若シ無鑑札ノ者ニシテ入門ヲ請フ時ハ直ニ衛舎ニ報スヘシ
- 二 物品ヲ門外ニ持出スル者アルキハ出門証(第二師團司令部ノ印ヲ押捺シタル)ヲ携ヘキヲ以テ之ヲ受取リ交代ノ後上等兵ニ差出スヘシ若シ出門証ナキハ門外ニ持出スヲ禁スヘシ然レモ各自携帯ノ行厨若クハ定制ノ服裝セル將校ノ隨行者ニシテ携帯スル物品ハ此限リニアラス
- 三 荷車又ハ軍隊外ノ駄馬ハ通行ヲ禁ス繼テ裏門ニ廻スヘシ

第六十八 輜重廠衛兵ヨリ配置スル歩哨ハ左ノ特別守則ヲ遵奉スヘシ

其六 輜重廠表門及裏門歩哨特別守則

- 一 表門及裏門歩哨ハ定制ノ服裝ヲナシタル軍人軍屬ノ外第二師團司令部若クハ輜重兵第二大隊又ハ陸軍經營部ノ鑑札ヲ所持者ニアラサレハ入門ヲ禁スヘシ但シ表門前哨ハ銃前哨ヲ兼ルモノトス
- 二 表門歩哨ハ第一號倉庫ヲ裏門前哨ハ同第二號倉庫ヲ巡視スヘシ但シ表門哨ハ夜間第一號倉庫ヲ巡視中ハ衛兵司令若クハ衛舎ニ在ル者ニ於テ表門ノ開閉ヲ監守スルモノトス
- 三 總倉庫ハ輜重廠長若クハ同監務又ハ監査ト上等兵ト

ノ立會ニアラサレハ開閉ヲ禁スヘシ
四 物品ヲ内外ニ持出ス者アルキハ出門証(輜重廠ト押捺)ヲ
携ヒヘキヲ以テ之ヲ受取リ交代ノ後上等兵ニ差出スヘシ
但シ各自携帯ノ行厨若クハ定制ノ服装セル將校ノ隨行者
ニシテ携帯スル物品ハ此限リニアラス

第六章 傳令兵及ヒ號砲手服務心得

其一 傳令兵

第六十八 傳令兵ハ衛戍衛兵司令ニ附屬シ衛戍副官ノ命令
ヲ受ケ命令及ヒ通報等ノ傳達ニ任スルモノトス
第六十九 傳令兵ハ下番ノ時ハ衛兵下士ヨリ退出時限ヲ受
領シ屯營ニ持飯ルヘシ
第七十 傳令兵ノ馬匹ハ晝夜何時タルモ乗用ノ準備ヲナシ
置クヘシ但シ夜間ハ頭絡及ヒ靴ヲ脱シ休憩セシムルヲ得

第七十一 傳令兵書幹若クハ筆記命令等ヲ傳達セシキハ受
領証ヲ受取リ衛戍副官ニ差出スヘシ但シ口演ヲ以テ傳達セ
シキハ其回答ヲ復命スヘシ
第七十二 傳令兵交代ノ際ハ其詰所及其附備ノ物品又ハ履
及ヒ附屬具ヲ掃除シ衛舎掛上等兵ノ立會ヲ受ケ目錄ニ照シ
申繼クヘシ

其二 號砲手

第七十三 號砲手ハ衛戍衛兵司令ニ附屬シ日々正午ノ號砲
(一發)火災(三發)非常號砲(五發)ヲ發射スルヲ任トス
第七十四 號砲手ハ毎日午前第十一時三十分衛兵下士ヨリ
火藥及ヒ門管ヲ受領ス該下士ノ指揮ヲ受ケ正午ノ號砲ヲ發
射スヘシ但シ火災及ヒ非常號砲ノ發射ハ衛兵司令ヨリ特ニ
命令ヲ受クヘキモノトス

第七十五 號砲手ハ毎日號砲發射後ニ於テ一方ニハ砲床附近ニ火災ノ慮レナキヤ否ヤヲ檢査シ又一方ニハ附屬具等ヲ丁寧ニ拭淨シ置クヘシ但シ砲及ヒ附屬具ノ拭淨ニ就テハ毎土曜日午前ニ於テ衛兵司令ノ檢査ヲ受クヘシ

第七十六 號砲手交代ノ際ハ其詰所及ヒ備付ノ物品又ハ砲及ヒ附屬具ノ掃除ヲナシ衛舍掛上等兵ノ立會ヲ受ケ目録ニ照シ授受スヘシ

第七章 風紀衛兵ノ一斑

第七十七 風紀衛兵ハ概テ下士ヲ以テ其司令ニ任スルモノトス但シ時ノ景況ニ依リ將校若クハ特務曹長ヲ以テ之カ司令ヲラシムルコトアルヘシ而シテ營門出入ノ者ニシテ軍人ノ態度及ヒ服裝等其法ニ違フ者アルハ之ヲ規正スルヲ以テ其任トス

第七十八 衛兵ノ人員ハ哨所ノ數ニ依リ其哨所ハ聯隊長之ヲ定ムルモノトス

第七十九 風紀衛兵ハ聯隊ノ週番中隊長之ヲ管轄スルモノニシテ衛兵ノ任務ニ關スル諭告命令ハ該週番中隊長ヨリ受ル者トス

第八十 衛兵司令ハ衛兵ニ關スル一般ノ命令及ヒ指揮營中日課ノ諸號音營倉ノ事務並ニ衛舍備附器具保存ノ責ニ任ス

第八十一 衛兵司令ハ其管轄スル各哨所ニ生スル諸件ヲ處理ス而シテ其守則外ノ事件ハ週番中隊長ニ申請シ其指揮ヲ受クヘシ

第八十二 司令ノ職務ヲ完全ナラシムル爲メ衛兵司令ハ自ラ營内ヲ巡廻シ又時々部下ヲシテ此巡廻ヲナサシムヘシ而シテ夜間ハ殊ニ火災ヲ警ムルコトニ注意スヘシ

第八十三 風紀衛兵司令ハ殊ニ營倉ニ注意スルヲ要ス夫レ屯營ノ營倉ハ懲罰ニ處セラレタル者ヲ錮スル所ニシテ入倉者勿着用スル被服及ヒ特許セラレルモノ、外物品等ヲ營倉内ニ入ル、ヲ許サス然レハ操典野外要務令内務書其他必要ノ書籍等ノ内一本ニ限リ入ル、ヲ許ス

第八十四 總テ營倉ノ開閉ニハ衛兵司令ハ止テ得サル場合ニ理セシム必ス其場ニ立會ヒ又一日ニ少クモ二回營倉内ニ新鮮ノ空氣ヲ流通セシムヘシ

第八十五 輕營倉ハ消燈號音ヨリ起床號音マテノ間ハ蚊張及ヒ毛布ヲ與ヘ食物ハ平常ニ異ナルヲナシ又時々入浴ヲ許スヘシ

第八十六 風紀衛兵ヨリ步哨ヲ配賦スル個所ハ概テ左ノ如シ

營門 營倉 彈藥庫 金櫃室 軍旗及勅諭ノ所在 裏門

第八章 風紀衛兵司令及衛舍掛步哨掛ノ任務

其一 風紀衛兵司令ノ任

第八十七 下番衛兵ハ交代ノ時限前ニ至レハ武裝ヲ整ヘ衛舍ノ前ニ於テ其左方ニ上番衛兵ノ爲メニ餘地ヲ置キ整列ス而シテ上番衛兵凡ソ五十歩ノ地ニ來レハ速歩行進ヲ取リ喇叭ヲ吹奏ス而シテ其位置ニ到レハ停止正面シテ整頓ス兩衛兵ハ共ニ捧銃ヲナシ喇叭手ハ「皇御國」ヲ吹奏ス

第八十八 兩衛兵司令ハ互ニ進テ敬禮ヲ行フ而シテ下番衛兵司令ハ職務ニ關スル百事ヲ上番衛兵司令ニ傳告スル者トス

第八十九 上番衛兵ノ司令ハ部下ニ職務ヲ分課シ衛舍掛ヲシテ衛舍及舍内備附ノ諸物品ヲ受取ラシメ又步哨掛ヲシテ步哨ヲ交代ヲ爲サシメ且ツ下番衛兵ノ步哨掛ヨリ其職務上

ニ係ル申繼ヲ領承セシムヘシ
 第九十 兩衛兵司令ハ立會ニテ營倉及犯人ニ係ル諸般ノ申繼ハ殊ニ嚴密ニスルモノトス
 第九十一 衛兵司令ハ百般ノ申繼キ終レハ兩衛兵司令共ニ週番中隊長ノ處ニ到リ其交代終リタル旨ヲ報告スヘシ此時下番衛兵司令ハ週番中隊長ニ其報告表ヲ呈スヘシ
 第九十二 步哨ノ交代終レハ兩衛兵司令ハ共ニ部下ヲシテ捧銃ヲナサシメ兩衛兵ノ喇叭手ハ「皇御國」ヲ吹奏シ下番衛兵ハ退去ス
 第九十三 下番衛兵既ニ退去スレハ上番衛兵ノ司令ハ部下ヲ解散シテ衛舍ニ入ラヌル而シテ其銃ヲ銃架ニ置クカ或ハ衛舍内ニ置クヘシ何レノ場合ニ在テモ銃及背囊ハ各自番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ列置シ銃ヲ錯雜セサル様注意スヘシ

其二 衛舍掛ノ任

第九十四 衛舍掛ノ上等兵ハ衛舍内外ノ清潔ニ注意シ衛舍及舍内備附ノ諸器具保存ニ任ス故ニ交代ノ時下番衛兵ノ衛舍掛上等兵立會ニテ諸器具及ヒ門戸窓牖等ニ至ルマテ悉ク破損欠失ナキヤ否ヤヲ檢テ而シテ其有無ヲ衛兵司令ニ報告スヘシ若シ破損欠失ナル時ハ司令ニ修理(交換)ヲ聯隊ニ申立ツヘシ
 第九十五 衛舍掛上等兵ハ司令ニ兼シテ細務ニ從事ス又司令衛舍ヲ離ルハ必ず留守スヘシ
 第九十六 衛舍掛ニ必要ナル消耗品ノ傳票(帳簿)ニ其品目員數ヲ記載シ聯隊書記ニ就テ受領スヘシ
 其三 步哨掛ノ任
 第九十七 步哨掛ハ步哨ノ交代ヲ掌リ且ツ其服裝ヲ整正ス

其守則ヲ熟知シ且ツ嚴密ニ之ヲ實施セシムルヲ任トス又衛
 舍ノ清潔保存ヲ監視スヘシ
 第九十八 步哨ヲ配置スルニハ其第一故參ノ者ヲ營門步哨
 トシ第二ノ者ヲ最遠ナル守地ニ置キ順次衛舍ニ近クニ隨テ
 新參ノ者ヲ置クヲ例トス
 第九十九 步哨掛ハ步哨ニ當ルヘキ兵ヲ呼出シ之ヲ一線ニ
 並列セシメ(其人員四名以下ナルハ重複セスシテ)右向キヲ
 ナサシメ躬ヲ先頭ノ左ニ附キ(下番衛兵ノ步哨掛アルハ又
 其左ニ附キ)テ交代ニ赴ク其交代ノ順序ハ營門步哨ヲ始メト
 シ次ニ最遠ノ哨所ニ行キ夫ヨリ逐次ニ衛舍ノ近傍ニ及ブヲ
 例トス其交代スヘキ步哨ヲ距ル凡ソ六步ノ地ニ到レハ步
 哨掛其隊ヲ停メ步哨掛ハ上番步哨ヲ下番步哨ノ前面ニ誘ヒ
 對立セシメ「捧ケ銃」ノ令ヲ下ス此令ニテ兩步哨ハ捧銃ヲナ

シ下番步哨ハ低聲ニテ其守則ヲ上番步哨ニ傳告ス若シ其傳
 告申誤認アルハ步哨掛之ヲ改正シ或ハ説明ヲ加ヘ終テ步
 哨掛ハ兩步哨ヲ立銃セシメ然ル後上番步哨ヲシテ哨舍
 ノ内外ヲ檢査セシム
 第一百 營門步哨ヲ除ク外總テ下番步哨ハ交代ノ後其隊ノ後
 方ニ附キ步哨掛ニ隨テ衛舍ニ皈ルモノトス
 第一百一 交代全ク終リ衛舍前ニ皈レハ步哨掛ハ下番步哨ノ
 銃ヲ檢査シテ解散セシメ然ル後衛兵司令ニ交代終リタル旨
 申告スヘシ
 第一百二 步哨ハ通常二時間毎ニ交代セシムルモノトス然レ
 モ時候若クハ形勢ニ依リ一時間毎ニ交代セシムルモノトス

第九章 步哨一般ノ心得及特別守則

其一 步哨一般ノ心得

第四百三 步哨ハ屯營内極要ノ場所ヲ守備スルモノニシテ即チ屯營内ノ耳目ヲリ而シテ其任務ハ概テ衛戍ノ步哨ト異ナルコトナシト雖モ其哨所ニ依テ特別ニ守則ヲ授クルモノトス第四百四 步哨ハ特ニ姿勢動作ヲ嚴正ニシテ決シテ漫リニ人ト談話シ或ハ讀書吟歌喫烟シ或ハ哨舍ヲ毀損シ或ハ其近傍ヲ汚穢ニスル等ヲ禁ス而シテ百事ニ配意注目シ瞬時モ警戒ヲ怠ルヘカラス第四百五 步哨ハ擔銃或ハ立銃ヲナシ或ハ銃ヲ腕ニシ其守地ヲ看守スヘシ假令哨舍内ニ在ルモト雖モ決シテ銃ヲ離スヘカラス夜間又ハ別命アルニアラサレハ銃ニ劍ヲ附着セス第四百六 步哨ハ哨舍ノ近傍三十歩以内ヲ行動スルヲ得ルト雖モ爲メニ看守ヲ怠ルヘカラス又交代ノ時ハ必ス其定位地ニ復立スヘシ

第四百七 步哨ハ我步哨掛引率セシ兵ヲ交交代スルカラス又職隊長同副官連番中隊長同特務曹長及ヒ衛兵司令同上等兵等ヲサレハ他人ニ其守則ヲ語り又他人ヨリ其守則ヲ更ニ受ルヘカラス(變換スル時モ亦然ス)第四百八 步哨ハ頭巾ヲ冠ルヘカラス又雨雪天ノ外ハ哨舍ニ入ルヘカラス其哨舍内ニ在ルモト雖モ敬禮ヲ行フヘキ時カ又ハ非常ノ音響ヲ聞ケルハ直ニ哨舍ヲ出スヘシ第四百九 步哨若シ火災アルヲ知ラハ「火事」呼ビ又盜賊暴行者等ヲ見レハ「氣」付テ呼ビ隣哨又ハ衛舍ニ報スヘシ若シ衛舍又ハ隣哨ニ遠キ步哨ニ在ラハ其最モ近キ兵舍ニ警報スヘシ第四百十 銃前歩哨ハ非常時聞カテ陸軍禮式第四十八條禮式ノ部ヲ見ヨニ依リ衛兵ノ銃ヲ執ルヘキ者ヲ望見セ

八「執レ銃」ト呼テ入ル者ハ其ノ所持ノ銃ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
第九「各歩哨」ニ在テ特ニ守ルヘキ守則ヲ授ク即チ左ノ如ク
第十「營門出入者」ニ注意シテ其ノ服裝ヲ大ニ注意スル事ヲ要ス
第十一「郵便電信配達者」ハ外聯隊若クハ陸軍經營部
第十二「營門出入者」ハ其ノ態度及以テ服裝等其法ニ違フ
第十三「營門出入者」ハ其ノ服裝等其法ニ違フ
第十四「臨時外出者」ハ其ノ服裝等其法ニ違フ
第十五「木鑿御所持者」ハ其ノ所持ノ木鑿ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス

一「營門出入者」ハ其ノ所持ノ銃ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
二「物品ヲ門外ニ持出ス者」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
三「以テ之ヲ受取ル者」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
四「將校ノ隨行者」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
五「何人ヲ係ナス疑ハシキ物品ヲ所持スル者」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
六「面會ヲ請フ者」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
七「聯隊長若クハ其代理營門ヲ出入スル者」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
八「衛舍長若クハ其代理營門ヲ出入スル者」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
九「營門前未歩以内」ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス
十「假令如何ハ其ノ所持ノ物品ヲ示シテ其ノ種類ヲ報告スル事ヲ要ス

其三 軍旗ノ歩哨

一 聯隊長室ニ在リ軍旗ヲ警備シ聯隊長連番中隊長旗手少尉以外何人モ軍旗ヲ觸ルヲ禁ズ

二 事變突ハ火災等ヲ見出シ連番中隊長ノ指揮ヲ受ケ一層守衛ヲ確實ニス

其四 彈藥庫邊ニ歩哨

一 彈藥庫ノ開閉ハ衛兵司令又ハ衛舍掛ノ立會ニアラサレハ之ヲ許サズ

二 聯隊連番兵器委員武器掛ノ外妄リ庫邊ニ近接スルヲ禁ズ

三 近傍ニ於テ火器ヲ弄ズ及ヒ銃器ヲ携ハ庫内ニ入ルヲ禁ズ

四 晝夜其周圍ヲ巡行シ警備ヲ怠ルヲ禁ズ

其五 營倉ノ歩哨

一 入倉者少動靜ヲ監視シ其周圍ヲ巡行シ喧噪ヲ戒ム

二 營倉ノ附近ニハ聯隊連番中隊長及ヒ軍醫ノ外衛兵司令又ハ衛舍掛ノ附添ヲ遣ハシ何人モ近接スルヲ許サズ

三 營倉ノ開閉ハ衛兵司令又ハ衛舍掛ノ外之ヲ許サズ

四 入倉者ヨリ請求スル際ハ其事實ヲ聞取り下番ノ件之上等兵ニ上申スヘシ

五 事變突ハ火災等アル時ハ一層警備ヲ嚴確ニス

一 金櫃ノ開閉ハ某軍吏殿及ヒ金櫃委員某少佐殿(某大尉殿)

二 ノ金櫃ヲ入倉新レハ其時ヲ注意シ

二 金櫃室ノ近傍ニハ何人カ近接スルヲ許サス若シ強
 テ近接セシトスル者又ルカ又ハ疑ハシキ舉動ヲ爲ス者
 ルキハ「氣ヲ付テ」呼フベシ
 三 傳變又ハ火災ノ時ハ週番中隊長ヲ指揮ニ從ヒ守衛ヲ確
 實ニスルベシ
 四 裏門ノ將校及ヒ傳騎陸軍官衛ノ外使經營部以印鑑ヲ所
 持スル者或ハ聯隊ノ公用印鑑ヲ携フル下士卒勤務演習ノ
 爲メ引卒スル部隊聯隊ノ鑑札ヲ所持シ營内需用品及ヒ下
 肥塵芥ノ運搬者ノ外通行ヲ許サズ
 二 將校ヲ除ク外出門証ナクシテ物品ヲ内外ニ持出スヲ許
 一 サズ但シ下肥塵芥及ヒ空車等ハ出門証ヲ要セズ
 三 疑ハシキ物品ヲ所持スル者出入セントスル者アルヒハ其

通行ヲ許スル者ハ其ハ「喇叭手」ニ在リ
 一 風紀衛兵ハ喇叭手ニ衛兵司令ノ命ヲ奉リ營中日課及ヒ
 其他ノ號音ヲ吹奏スルヲ以テ任トス
 二 營中日課ハ聯隊長ヲ定ムルモ以テ其吹奏スヘキ號音
 ハ概テ左ノ如シ
 起床 旧朝點呼 朝食分配 朝食事 診斷 會報 衛兵
 支度及集合 晝食分配 晝食事 罰人呼集 夕食分配及
 食事 日夕點呼 消燈
 三 風紀衛兵ノ喇叭手ハ衛兵ノ當番ヲ補務ニハシ
 四 徒ニ喇叭ヲ吹奏スルヲ嚴禁トス又漫カニ衛舎ヲ離ル
 ナ許サズ

第十章 衛兵及歩哨ノ敬禮

第百廿二 衛成ノ諸衛兵ノ兩陛下及左ニ列記スルモノニ
 謝シテハ開列又ハ衛舍前ニ濶隊ニ整列シ銃或ハ切刃若ハ槍
 ヲ執リ敷禮ヲ行ハルモ但シ敬禮ヲ行フハ距離及隊列ノ正
 面ハ其場所ノ様ニ依リ適宜ニ之ヲ定ムルモノトス
 一 太皇太后皇太后陛下皇太子妃皇太孫皇太孫妃
 陛下其他皇族并ニ外國ノ皇帝皇后陛下皇族
 一 軍旗
 一 陸軍大臣總謀總長暨軍及將官
 一 軍隊
 第百廿三 衛成ノ諸衛兵ノ前項第三ニ掲ゲル諸官ノ葬式ニ
 モ亦其柩ニ對シ生前ノ同列ニ敬禮ヲ行フヘシ
 第百廿四 風紀衛兵ハ兩陛下及左ニ列記スルモノ其屯營門

ナ出入スルハ衛舍前ニ整列シ銃或ハ刀若クハ槍ヲ執リ敬禮
 ナ行フヘシ
 一 第百廿二ノ第一第二第三(上長官タル各兵監其統監ス
 ニ亦本文)及第五ニ揚グルモノ
 一 所屬旅團長ノ職ヲ奉ル大佐
 一 所屬聯隊長并ニ獨立及ヒ分屯ノ大隊長又ハ中隊長
 第百十五 凡テ衛兵ハ下士以下ノ引卒セル軍隊及武裝セサ
 ル部隊ニ對シテハ敬禮ノ爲メ整列スルコトナシ
 第百十六 衛成諸衛兵ノ敬禮ハ左ノ諸項ニ依ルヘシ
 第一項 兩陛下ニ對シテハ陸軍禮式第三十一條ノ一項(兩
 陛下ニ對シテハ隊列ヲ正シ步兵要塞砲兵工兵ニ在テハ銃
 ニ劔ヲ裝シ捧銃ヲ行ヒ騎兵ニ在テハ捧刀銃ヲ携フル野戰砲
 兵ニ在テハ砲手砲後ニ列ニ整列シテ捧刀立鎗重兵ニ在

兵ハ乘馬シアルハ捧刀シ駄馬又ハ車輛ヲ輓クハ其傍
 定位ニ立チ車正ノ者ハ下車シ氣ヲ付テ姿勢ヲ執リ總テ曹
 長ハ捧刀シ將校ハ皆刀ヲ以テ敬禮シ軍旗亦敬禮ヲ行ヒ喇
 叭手ハ「君ケ代」ヲ吹奏ス（車駕隊列ヨリ凡ソ三十歩ノ所ニ來
 テ止ム）
 第二項 軍旗ニ對シテハ之ヲ軍隊ニ植立セサルハ先ツ
 軍隊ニ對スルハ敬禮ヲ行ヒ軍旗其前ヲ通過スルニ臨ミ更
 ニ軍旗ニ對シテ陸軍禮式第三十一條ノ一項（前項ヲ見ヨ）ハ法
 ニ準シ敬禮ヲ行ヒ喇叭「足曳キ」ヲ吹奏スヘシ但シ軍旗送迎
 ノ技隊ニハ軍隊ニ對スル敬禮ハ行ハス直ニ軍旗ニ對スル
 ノ敬禮ヲ行フモナス
 第三項 陸軍大臣參謀總長監軍及ヒ將官ニ對シテハ陸軍
 禮式第三十條條ノ二項（以上ノ諸官ニ對シテハ隊列ヲ並シ

騎兵野戰砲兵ニ在テハ肩刀（鎗ヲ携フル）步兵要塞砲兵（砲手ヲ
 乗ル）野戰砲兵工兵輜重兵ニ在テハ其儀姿勢ヲ正シ馬（輜重兵
 乗ル）同騎兵受禮者ハ眼ニ注目シ總テ其隊長ハ刀ヲ以テ敬禮
 ヲ喇叭手ハ左ノ區別ニ從テ海行カハ「吹奏ス但シ各兵ノ
 敬禮ハ場合ニ依リ例ハ受禮者突然隊ノ左翼ヨリ來ル時
 ノ如キハ中隊各個ニ之ヲ行フモ妨ナシ
 一 陸軍大臣參謀總長監軍及陸軍大將ハ三回
 一 陸軍中將ハ二回
 一 陸軍少將ハ一回
 一 陸軍少將ハ一回ノ法
 第四項 軍隊ニ對シテハ陸軍禮式第三十三條（軍隊相互
 敬禮ハ騎兵野戰砲兵ニ在テハ肩刀（鎗ヲ携ル）步兵要塞砲兵（砲手ヲ
 乗ル）野戰砲兵工兵輜重兵ニ在テハ馬（輜重兵
 乗ル）同騎兵受禮者ハ眼ニ注目シ總テ其隊長ハ刀ヲ以テ敬禮
 以下之ニ執ラズ」步兵要塞砲兵（砲手ヲ携ル）野戰砲兵（砲手ヲ携ル）工兵輜重

兵ニ在テハ停止間サレハ隊列ヲ正シ（騎重兵乘馬シアルハ騎兵ニ同シアル）進間ナレハ「頭左（右）」ノ令ニテ皆頭ヲ少シク他隊ノ方ニ向ケ之ニ注目シ總テ其隊長ハ刀ヲ以テ敬禮シ（下士以下ナレハ銃ノ儘若クハ擧手注目但シ停止間ナ喇叭「皇御國」一回ヲ吹テハ捧銃刀又ハ捧槍若クハ立槍）奏ス但シ大隊以上ノ隊ニ在テハ中隊毎ニ之ヲ行フモノトス）ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ途步行進ノ軍隊並ニ儀仗隊ノ現ニ儀仗服務中ノモノ及會葬ノ儀仗隊ニ對シテハ敬禮ヲ行ハス

第一百十七 風紀衛兵ノ敬禮ハ勲條各項ニ同シ又陸軍禮式第五十條第一第二（前同斷）ノ諸官ニ對シテハ同第三十一條第三（前示ヲ見ヨ）及ヒ第五項（第二項）前ニ示ス」乃至第四項「隊長大隊長及中隊長ニハ其部下軍隊ニ限リ第三項（前ニ示ス）ト同一ノ敬禮ヲ行フ只喇叭「海行」ハ「吹奏セサルヲ異リトス」ト敬

禮ハ其隊ノ先頭受禮者ヲ距ルコト凡ソ六歩ノ所ヨリ敬禮ノ姿勢ヲ執リ隊列ヲ過去ルマテ其姿勢ヲ保ツ可シ但シ大隊以上ノ隊ニ在テハ中隊毎ニ之ヲ行フ者トス）ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ騎兵ノ銃ヲ持ツ時ハ步兵ニ同シ

第一百十八 舍營スル軍隊ハ風紀衛兵ハ其營舍前ヲ通過スルモノニ對シ屯營風紀衛兵敬禮ノ法ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ別ニ定規アルモノハ此限リニアラス

其三 歩哨ノ敬禮

第一百十九 歩哨ハ衛戍ノ歩哨ナルト其他ノ歩哨ナルトニ論ナク兩陛下及ヒ左ニ列記スルモノニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ

一 太皇太后皇太后陛下皇太子皇太妃皇太孫皇太孫妃殿下其他皇族并ニ外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 軍旗
 一 陸軍大臣參謀總長監軍及將官上長官士官
 一 大勳位及勳一等ヨリ勳六等ニ至ル各種勳章(實冠章勳章佩用者以上捧銃)
 一 下士
 一 勳七等及八等ノ各種勳章佩用者(以上直立不動ノ姿勢)
 第一百二十步哨敬禮ヲ行フニハ其定位地ニ立チ(若シ廠舎内必ス之ヲ出ツ)受禮者凡ソ六步前ニ來ルキ敬禮ノ姿勢ヲ執リ之ニ注目シ六步過去テ其姿勢ヲ保ツヘシ
 第一百二十一 復哨ニ在テハ相互ニ注視シ勉テ同時ニ敬禮ヲ行フヘシ
 第一百廿二 步哨ヲ敬禮ハ晝間ニ非レテ行ハサルノ定規ナリ
 雖モ其尊敬スル人ニ對シテハ受禮者タルヲ識別スレハ

勉テ敬禮ヲ行フヘシ
 第一百廿三 步哨ノ敬禮ハ左ノ諸項ニ依ルヘシ
 第一項 兩陛下及ヒ第一百十九ノ第一項乃至第四項ニ掲ルモリニ對シテハ捧銃捧刀捧槍シ第六第七ニ揚ルモノニ對シテハ執銃(刀)(槍)ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘシ
 第二項 軍隊ニ對シテハ姿勢ヲ正シ其隊長ニノミ階級相當ノ敬禮ヲ行フヘシ
 第三項 儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ樞ニ對シテハ其死者ノ階級相當ノ敬禮ヲ行フヘシ
 第四項 帶勳者ニシテ其勳章ニ對スル敬禮ト官職ニ對スル敬禮ト相等シカラサルモノニ對シテハ其重キニ從ヒ敬禮ヲ行フヘシ
 第五 帶勳者ノ略綬ヲ佩用スルモノニ對シテハ執銃執刀

又ハ執棒ノ儀姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘシ
第六 步哨ハ兵卒ヨリ敬禮ヲ受クルキハ執銃(刀)(槍)ノ儘姿
勢ヲ正シ答禮ヲ行フヘシ

第十一章 暗號及問查

其一 暗號

第二百二十三 暗號ハ言語ヲ以テスル符言ニシテ記號ハ物件
ヲ以テスル合圖ナリ共ニ前哨及衛兵勤務等ニ於テ晝夜使用
シテ以テ彼我ヲ識別シ通信ヲ受授スルニ極テ緊要ナルモノ
ナレハ猥リニ人ニ語ルヲ嚴禁トス
暗號ハ地方ノ情勢ニ於テ必要アルキハ之ヲ用ヒ衛戍司令官
之ヲ規定ス
暗號ハ衛兵上番時刻前封書ヲ以テ衛戍副官ヨリ聯隊長及獨
立隊長ニ傳達スヘシ衛兵司令巡察及控兵ノ將校下士ニハ週

番大隊副官ヲシテ傳達セシムルモノトス
衛兵司令ハ日没前ニ於テ部下ニ暗號ヲ授ク而シテ暗號ハ問
號答號ニ分テ其問號ハ概テ古今ノ名將勇士ノ名ヲ用ヒ答號
ハ著名ナル土地ノ名ヲ用ユ

其二 問查法

第二百二十四 步哨特別ノ時機ニ於テ又特別ノ守則ニ依リ夜
間人ノ妄リニ近接スルヲ許サズルキハ之ヲ問查スヘシ此
場合ニ於テ人來テハ止レト呼ヒ其人止レハ「誰カ」ト問フヘシ
其人斥候又ハ巡察ニ非サレハ「通レ」ト呼ヒ已ヨリ反對ノ方向
ニ通行セシムヘシ若シ止レト呼スト三回ニ及ブモ答ヘス前
進スルキハ銃ヲ擡ヘテ行進ヲ遮阻スヘシ

第二百二十五 銃前步哨夜間軍隊ノ來ルヲ見レハ止レト呼ヒ

衛舎ニ向テ「執」銃ト呼フヘシ此呼聲ニ應シテ軍隊ハ其行進
ヲ停メ衛兵ハ直ニ整列ス
衛兵ノ上等兵ハ護衛卒三名ヲ從ヘテ十五歩前進シ護衛卒ハ
四歩後方ニ止ル而テ上等兵ハ「誰カ」ト呼フ彼レ「斥候」ト答メレ
ハ更ニ「暗號」ニ進メ「下」呼ヒ搦銃ヲナス斥候長ハ獨リ前進シ上
等兵ニ向ヒ低聲ニテ暗號ヲ唱テ上等兵ハ之レニ應シテ後護
衛卒ト俱ニ整列シ斥候長ヲシテ獨リ通過セシメ之ヲ衛舎ニ
誘ヒ衛兵ハ其衛舎ニ入ルヘシ
凡テ調査ニ任ズル上等兵及ヒ之ニ從フ兵卒ハ豫メ之ヲ定メ
置クヘシ上等兵ハ斥候長ノ唱フル暗號ニ錯誤アレハ之ヲ衛
兵司令ニ引到シ衛兵司令ハ之ヲ審査シ疑ヲヘキ所アレハ其
兵卒ト俱ニ之ヲ拘留シ直ニ其旨ヲ衛戍副官ニ申告スヘシ
歩哨ハ止レト呼フモ軍隊停止セザルモ六更ニ止レト呼ヒ彼

レ尙ホ前進スルモハ銃ヲ構ヘ衛兵ハ防禦ノ準備ヲナスヘシ
銃前ニ配置セサル歩哨モ亦「止」ト呼ヒテ軍隊ヲ止メ軍隊停
止セハ「誰カ」ト呼フ彼レ斥候ト答フレハ「暗號」ニ進メト呼ヒ搦
銃ヲナス此時斥候長ハ單進シテ歩哨ニ暗號ヲ與フヘシ
第二百二十六 銃前歩哨ハ「止」ト呼ヒ近接シ來ルモノヲ止メ
彼レ止レハ「誰カ」ト呼フ之レニ應シテ將校巡察ト答レハ歩哨
ハ衛舎ニ向テ將校巡察ト呼フ其他ノ諸動作ハ前條ノ法ニ依
ル者トス
第二百二十七 斥候長ハ他ノ衛兵ノ守地ニ至レハ「調査終ルノ
後」獨リ衛舎ニ入り衛舎ノ帳簿ニ其到達セシ時刻及ヒ其屬ス
ル衛兵若クハ控兵ノ名稱ヲ記シ若シ非常ノ事件ヲ聞見セシ
トアレハ之ヲモ記スヘシ
斥候長ハ歩哨ノ勤惰ニ注意シ其過失ヲ目撃スレハ之ヲ衛兵

司令ニ申告スヘシ
 特別ノ時機ニ於テ夜間遭遇スル兩斥候間查ヲナスヘキ時ハ
 最初ニ發見セシ者止レト呼ビテ乙者ヲ止メ「誰カ」ト呼ビテ自
 ラ亦駐止ス乙者ハ直ニ駐止シ斥候ト答フレハ甲者モ亦自ラ
 斥候ト唱ヘ「暗號」ニ進メト呼ビ兩斥候長相對シテ獨進シ兩
 候長ハ構刀甲者ハ其階級ノ如何ニ係ラヌ乙者ヨリ暗號ヲ受
 ケ之ニ應ジテ後互ニ巡察ノ事件ヲ通報ス而シテ兩斥候ハ行
 進ヲ起スヘシ

明治二十九年十月二十日印刷
 明治二十九年十月三十日出版

編輯者
 發行者

三澤好吉
 宮城縣仙臺市大町三丁目六番地

印刷者

酒井廣吉
 東京市赤坂區新坂町七十八番地

印刷所

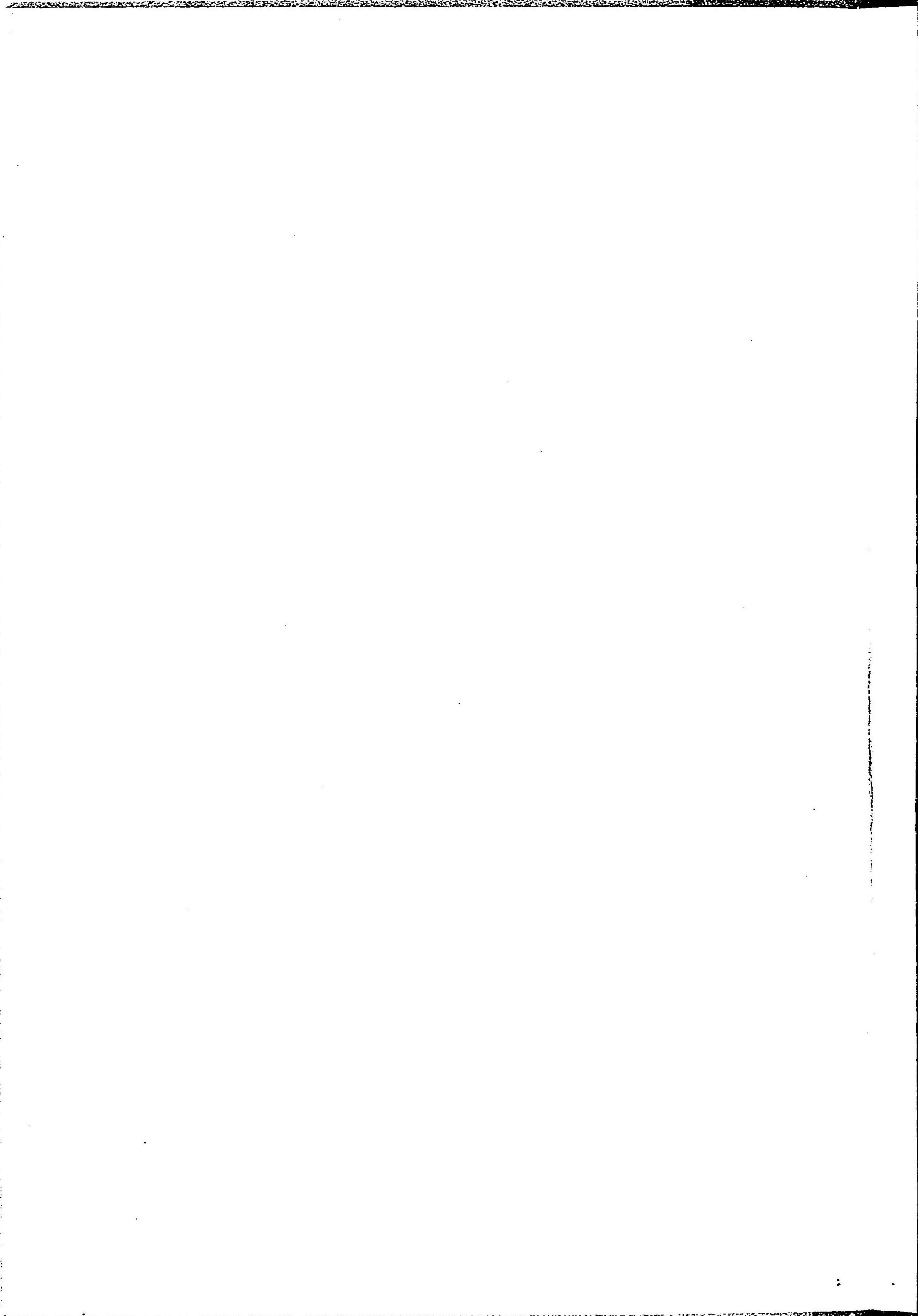


大日本
 陸海軍
兵書出版會社

東京市神田區錦町一丁目十番地

Table with 2 columns and 10 rows of text, possibly a list or index.

一	一
二	二
三	三
四	四
五	五
六	六
七	七
八	八
九	九
十	十



580
The following information is for your information only. It is not intended to be used as a substitute for the information provided in the original document.

特50

389

衛 兵 勤 務

国立国会図書館

051347-000-5

特50-389

衛兵勤務

三沢好吉 / 編

M29

BFB-0039

